

親子クイズ 560

Q さて先日、野市動物公園に行ってきました。子どもたちの歓声と動物の鳴き声が聞こえてきて、とても賑わっていました。動物の名前を覚えている子どもは得意になって一緒に来た親や祖父母に解説している姿が微笑ましく感じられました。あなたはこの動物たちの名前を知っていますか？

下記の10匹の動物の名前を教えてください。



①多摩動物園から来ました



②素潜り名人



③足先指をよく見て



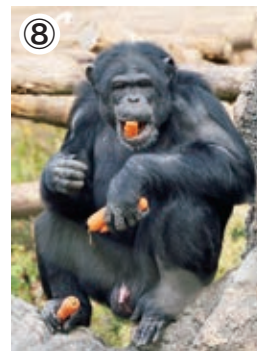
④ナガイ尻尾で上手にバランスを取る



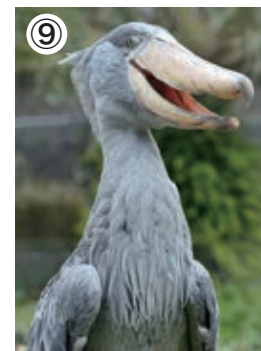
⑤走りはバク速、砂漠の掃除屋



⑦食事は竹の葉、りんごが大好物



⑧人参大好き



⑨笑うようにカッカカッ 珍しく愛嬌よし



⑥赤ちゃんがお腹の袋の中からこんにちは



⑩来年は有名になるかな

■応募締切／1月11日(金)必着
■あて先／〒783-8501
南国市大堀甲2301
南国市企画課「親子クイズ係」
*はがきで応募
■賞品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈

【第559回解答】

100

★応募総数／19通 ★正解率／32%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

市民からのお便り (親子クイズ) 南国市の人口は5万人をこえていると思っていたのに4万7千人...これからふえるのかな？

つなげて 92 人権学習シリーズ

絵本「だつてだつてのおばあさん」(※)を知っていますか？おばあさんの九十九歳のお誕生日に猫がろうそくを買いに出かけます。

しかし、途中でろうそくを落とし、五本しか持って帰ってこられませんでした。「ごめんなさい」と泣く猫に、五本のろうそくを立てたケーキを見て「無いよりましよ。」と言ひ、「五歳のお誕生日おめでとう」と祝ったのでした。次の日おばあさんは猫に誘われ魚釣りに出かけます。今までは「だつて九十九歳だもの」と断っていたが、お誕生日のお祝いの次の日からは、「そうね、私五歳だわ」と猫と一緒に川を飛び超えたり、魚を釣ったりして楽しめるようになりまし。絵本のお話なので意図するところは違ひかもしれませんが、年齢に関係なく、自分らしくあろうとするおばあさんがステキに思えました。

先日読んだ本に、三つの「ら」の視点で自分の周りにいる人たちを考えてみませんか？と書いていました。

三つの「ら」とは「らしく」「らしさ」「らしい」。「らしく」とは、自分が求める姿やありよう。「らしさ」とは、他の人や社会が求める価値観。「らしい」とは、

三つの「ら」

おもんばかりで考えたり、行動する意味ではないか、とありました。女らしく・男らしく・社会人らしい：三つの「ら」の上につく言葉が、社会が求める価値観を持つものな、押し付けられるような気がします。しかし、自分らしく、あなたらしく、彼らしく：となると、励まされたり、認められているような気持ちになります。

人には得意なことや苦手なことがあります。また、興味や趣味も人それぞれです。一人ひとりが気持ちよく生活していくためには、その人らしさが暮らしの中で生かされているか考えてみてはどうでしょう。その人らしさが大事にされるそんな関係が作れたら生きやすくなるのではないのでしょうか？人それぞれの「らしさ」や「らしく」が尊重される社会になったらいいと思いませんか。

※参考文献

「だつてだつてのおばあさん」

著者 佐野 洋子
出版社 フレーベル館

■問い合わせ

人権啓発広報委員会
☎880・6569

なんこく歴史散歩 第71回

安政6(1859)年12月16日、長岡郡長岡村東崎(現後免中町)で染物業を営む家に生まれました。

明治4(1871)年、13歳の時に蓮池町の河田小龍の画塾「函菖社」の門人となります。入門後は舟入川の土手を約1時間かけて通いました。小藍は函菖社を終えたのちも常に小龍の指導を受け、門下の中でも画風が小龍に最も似ており、筆致軽妙で山水、花鳥、人物ともに得意でした。

明治12(1879)年、父が隠居したため家業の染物業を相続しますが、後に染物業はやめて画業に専念しています。

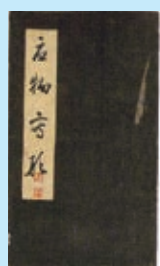
明治17(1884)年8月、第二回内国絵画共進会に人物、鳥図を出品して二等賞に入選します。その年の2月、後免町横町に火災が起こり、一夜にして横町一帯は焼け野原になりました。現在の末次金物店から北へ宇田橋のあたりと思われる。その時の絵馬が後免町日吉神社に当時の消防隊から奉納されており、絵は今井小藍、文は蒼龍の作となっています。

明治23(1890)年、京都より近代日本画で高い評価を受けている富岡鉄斎が来高し、土佐日記にゆかりの地を訪ねたときに料亭で茶会があ

後免町の絵師 今井小藍

りました。その時、小藍は屋号を鉄斎に乞います。鉄斎から容舟亭の額字を受け、小藍は非常に喜び自作の絵を鉄斎に献じたといわれています。

小藍の門人には、若尾瀧水、吉永梅里、廣井鯉洲を初め15名はいたといわれ、年に1回は弟子を自宅に集め、勉強会を開いていました。小藍の趣味は生け花、性格は謹厳実直、華美を嫌い質素を守り、無口で仕事熱心でした。しかし、痩せ形で小柄な体格で胃腸が弱いため、梅雨の頃から秋の涼しくなるまで暑さを避け、吾川郡秋山村(現高知市春野町)の種間寺で過ごしていました。種間寺には廃仏毀釈後、寺の興隆に努めた門人の一人中岡華堂がいました。小藍は大正11(1922)年10月25日、東崎の自宅で亡くなりました。



画集「応物写影」と作品

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎802・6062